日本の婚礼衣裳と宗教の関係に関する一考察

Correlation between Wedding Costume and Religion in Japan

粕川　みな子

KASUKAWA Minako

日本の婚礼衣裳と宗教の関係に関する一考察

Correlation between Wedding Costume and Religion in Japan

粕川　みな子
KASUKAWA Minako

要旨：現在日本で執り行われる婚礼スタイルは多様であり、宗教や儀式にとらわれることなく各々の好みが強く反映されている。世界ではそれぞれが信仰する宗教のもとで儀式が行われ、民族衣裳を着用して臨んでおり日本の婚礼の現状とは大きく異なっている。このような背景には日本人の宗教観が影響しているのではないかと考えたため、宗教と婚礼衣裳と歴史を取り合わせて調べた。日本人の６割は信仰する宗教はないことから、婚礼という人生儀礼においてもその影響は受けておらず、今後もこの現状は変わらないと言えるのではないだろうか。
キーワード：結婚式、婚礼衣裳、白無垢、宗教、神道

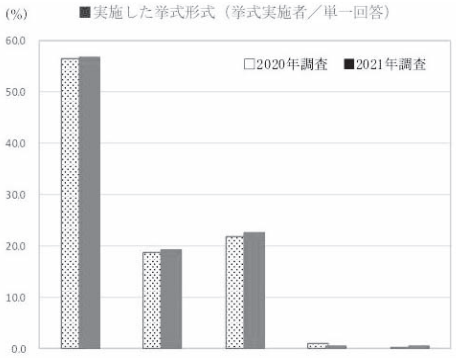
１．はじめに

2020年に日本人花嫁が最も多く着用した婚礼衣裳はウエディングドレスである（リクルートブライダル総研：2021）。キリスト教式の人気やチャペルの荘厳な雰囲気と衣裳の優美な姿に多くの花嫁が憧れを持っている結果であろう。しかし日本には神道という独自の宗教があり、神道の神様を祀る神社がある。そこでは神前式が執り行われ、着物という民族衣裳が着用されている。国独自の宗教や衣裳がある中で、現代のように西洋衣裳が多数派となったのは何故なのだろうか。日本人の宗教観という観点からの一考察である。

２．本論

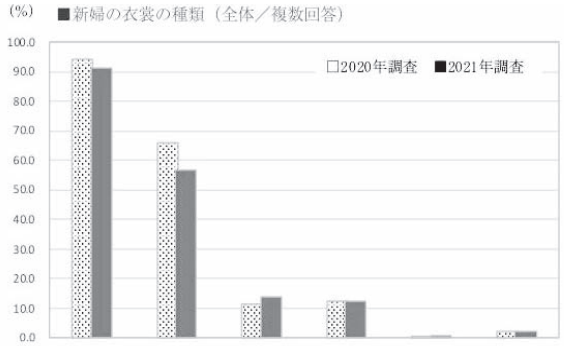
２．１　挙式形態と着用衣裳の関係

日本における挙式形態は大きく４つである。各挙式の実施率は「ゼクシィトレンド調査2021首都圏」によると、キリスト教式56.7％、神前式19.2％、人前式22.5％、仏前式0.5％となっている。花嫁の婚礼衣裳はお色直しも含まれるため複数回答になるが、ウエディングドレス91.2％、カラードレス56.8％、白無垢13.7％、色打掛12.3％、黒引き（本振袖）0.5％と圧倒的にドレスの着用率が高く、実施した挙式形態とその挙式形態の礼装が選ばれている。



		調査数	キリスト教式	神前式	人前式	仏前式	その他	無回答
首都圏	2021年度調査	635	56.7	19.2	22.5	0.5	0.5	0.6
	2020年度調査	885	56.5	18.6	21.8	1.0	0.3	1.7
	2019年度調査	756	56.0	19.4	22.0	0.4	0.9	1.3
	2018年度調査	763	64.5	17.8	16.6	0.5	−	0.5
	2017年度調査	737	57.0	19.3	22.7	0.4	0.3	0.4
	2016年度調査	841	57.8	18.2	21.8	0.4	0.5	1.4
	2015年度調査	768	60.7	17.2	19.1	0.5	0.3	2.2

表１　実施した挙式形態『ゼクシィトレンド調査2021首都圏』を基に作成



		調査数	ウエディングドレス	カラードレス	白無垢	色打ち掛け	黒引き	その他	無回答
首都圏	2021年度調査	657	91.2	56.8	13.7	12.3	0.5	2.3	0.3
	2020年度調査	911	94.2	65.9	11.3	12.3	0.3	2.1	0.3
	2019年度調査	776	93.7	66.8	12.0	15.1	0.3	1.7	0.4
	2018年度調査	784	94.3	64.8	11.7	14.0	0.4	2.8	0.1
	2017年度調査	750	94.5	62.7	12.4	17.5	0.3	3.3	0.4
	2016年度調査	856	95.4	62.0	10.0	14.3	0.8	2.7	0.6
	2015年度調査	794	94.8	61.6	11.1	16.5	0.6	2.6	0.3

表２　新婦の衣裳の種類『ゼクシィトレンド調査2021首都圏』を基に作成

２．２　日本におけるウエディングドレスの歴史

日本で初めて婚礼衣裳にウエディングドレスが着用されたのは1873年（明治６）長崎県で行われた磯部於平（いそべ おへい）という女性と中国人の結婚式であったと言われている（ぐるなびWEDDING：2014）。ウエディングドレスは当時日本にはなかったため、海外から取り寄せた大変高価な物であり、西洋式の結婚式はごく限られた人達のみが行えるものであった。

日本で一般にウエディングドレスが普及するきっかけになったのは1959年（昭和34）、当時の皇太子（現上皇陛下）と美智子妃（現上皇后陛下）の御結婚である。御成婚に際してパレードが行われ、沿道には53万人の群衆が詰めかけた。またその様子は実況中継され多くの人の見るところとなった。美智子妃のローブ・デコルテにロンググローブとティアラを身につけた姿に女性達が魅了されたのだ。1960年代に入ると一般にウエディングドレスが普及しはじめる。1964年（昭和39）には桂由美氏が日本初のブライダル専門店をオープンし、続いて多数のウエディングドレスメーカーが登場した。

1960年代（昭和40年頃）のウエディングドレス着用率はわずか３％程度だったというが、1975年（昭和50）には13％まで増加する。1990年代半ばには、キリスト教式の実施率が神前式の実施率を抜き、それに伴いウエディングドレスの着用率も上昇していった（ウエディングの進展と京の街のブライダルビジネス：2014）。

「ゼクシィトレンド調査2021首都圏」によると、2020年（令和２）４月から2021年（令和３）３月に挙式または披露宴やウエディングパーティを実施した人のウエディングドレス着用率は91.2％であった。ウエディングドレスは現代の花嫁の最もポピュラーな装いとなった。

２．３　日本における花嫁衣裳の成り立ち

現在では婚礼時に特別な衣裳（花嫁衣裳）を着用することが当たり前になっているが、平安時代までは花嫁衣裳という概念も婚礼用の特別な装束もなかったため、常用の晴れ着を着たと言われている（日本のドレスコーディネーター育成プログラム：2013）。

平安時代はそれまでの唐風装束から国風の装束に変化をした頃と見られている。公家女性が婚儀の際に着用したものは小袿（こうちき）で、これは源氏物語に書かれている（日本服飾史：2019）。

花嫁衣裳に白無垢が着用されたのは室町時代である。武士の世になり婚姻様式がそれまでの通い婚（婿入り婚）から嫁入り婚へと大きく変化をした時代でもあった。乱世の中、足利幕府による礼導教育が開始され、その中で婚礼様式や衣裳も定められていった。さらに様々な礼法を記した「武家故実書」が作成され、花嫁衣裳については「練（絹織物の一種）の下着に幸菱の地紋の白い小袖（こそで）を打掛、白幸菱の被衣（かずさ）」と記されるなど、武家女性の婚礼装束が今日の白無垢の始まりになったことがわかっている（日本のドレスコーディネーター育成プログラム：2013）。

２．４　晴れ着と呼ばれる民族衣裳

民族衣裳は土地や民族特有の衣服であり、その土地の気候や風土、文化や伝統に息づき、歴史や宗教、民族独特の美意識が表われている。

多くの国では婚礼や祭りなどに「晴れ着」を着てきた。特別な日の装いが「晴れ着」と呼ばれ民族衣裳を着用して喜び祝い祈るのは万国共通なのだ。現在も多くの国で「晴れ着」の民族衣裳が婚礼衣裳として着用されている。アジアの国を一例に挙げると中国では清の時代の洋服が元になっている「チャイナドレス」を、韓国では「チマチョゴリにトゥルマギ」を着用する。さらに中国では縁起が良いとされる赤色のチャイナドレスが伝統に則った装いであり、韓国では地位により着用できる色が決められていたが、王室の婚礼服の色の中で平民にも婚礼時のみ許可された緑色のチマチョゴリを現在でも着用し、伝統婚礼儀式である「ペベク」を行っている。しかし、伝統的な民族衣裳だけでなく現在の中国ではウエディングドレスをイメージさせる白いチャイナ

ドレスがあり、韓国ではパーティ用に色彩や形が変化したチマチョゴリが登場している。

２．５　フォトウエディングにおける和装の着用率

日本の民族衣裳である和装は挙式や披露宴での着用率は低いが、近年人気となっているフォトウエディング[1]ではどうなのだろうか。

株式会社ウエディングパークが2020（令和２）年４月～2021（令和３）年３月に結婚かつフォトウエディングや前撮りを実施した1,515人を対象に「フォトウエディング・結婚式前撮りの実施」に関するアンケートを実施し「フォトウエディング動向調査2021」を発表した。この調査によると72％のカップルがフォトウエディングを実施または実施予定である。「ゼクシィトレンド調査2021首都圏」でも別撮りやロケーション撮影を実施したカップルは68％と発表されている。

花嫁の着用衣裳は「フォトウェディング動向調査2021」によるとウエディングドレスが68.1％で最も利用されており、続いて色打掛が46.1％と続いている。ウエディングドレスの着用率が高くなっているが、この調査では挙式・披露宴実施者と未実施者双方に調査を行っており、未実施層のウエディングドレス着用率が82.2％であることから、実施者では和装が最も着用されていたと言える。

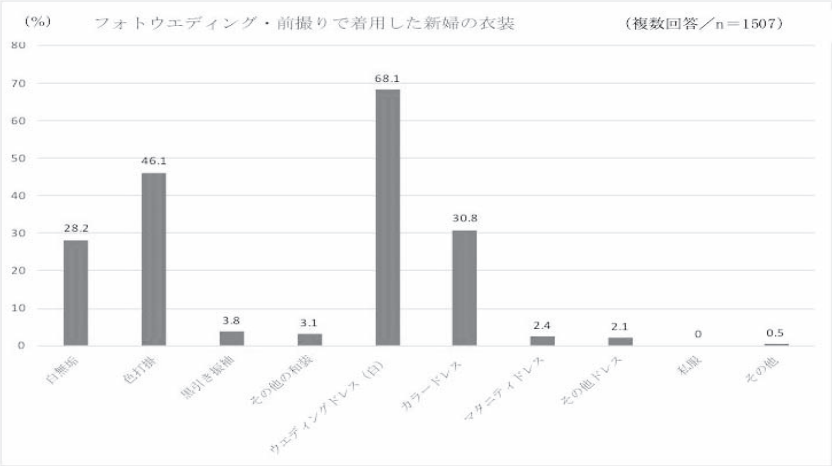
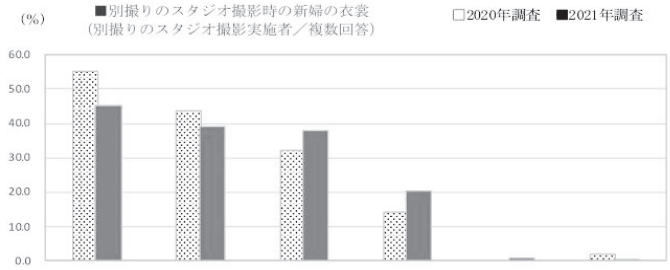


表３　フォトウエディング・前撮りで着用した新婦の衣装『フォトレイト』を基に作成

また「ゼクシィトレンド調査2021首都圏」では色打掛が45.2％と最も着用率が高く、続いて白無垢が39.1％という結果であった。ウエディングドレスは37.9％で３位である。2015年より行わ

れている調査であるが、色打掛の着用率は７年間変わらず１位であった。これにより、花嫁は「実施した」「実施する」挙式形態の礼装以外の衣裳をフォトウエディングで着用するということがわかった。



		調査数	色打ち掛け	白無垢	ウエディングドレス	カラードレス	黒引き	その他	無回答
首都圏	2021年度調査	261	45.2	39.1	37.9	20.3	0.8	0.4	4.6
	2020年度調査	328	55.2	43.6	32.0	14.3	–	1.8	5.8
	2019年度調査	245	55.5	38.4	33.1	18.4	0.4	2.0	4.1
	2018年度調査	268	60.8	36.9	29.9	18.3	1.5	1.5	4.9
	2017年度調査	242	59.1	44.2	35.1	21.9	2.1	1.7	3.3
	2016年度調査	314	56.1	39.8	31.8	20.7	1.3	2.2	7.0
	2015年度調査	249	56.2	41.4	32.1	23.3	2.4	2.4	4.4

表４　別撮りのスタジオ撮影時の新婦の衣裳『ゼクシィトレンド調査2021首都圏』を基に作成

２．６　日本人の信仰する宗教

NHK放送文化研究所が参加している国際比較調査グループISSP（International Social Survey Programme）の宗教に関する質問に「普段信仰している宗教がありますか」というものがある。選択肢に「仏教」「神道」「キリスト教」などを示しているが、2018（平成30）年の調査では「冠婚葬祭の時だけの宗教ではなく、あくまで、あなたご自身が、普段信仰している宗教をお答えください」という但し書きが付け加えられた。これにより日本人が信仰している宗教が見えてきた。回答は「仏教」と答えた人が31％、「神道」が３％、「キリスト教」が１％で、信仰を持つ日本人は36％であった。一方で「信仰している宗教はない」と答えた人は62％であった。

大阪商業大学JGSS研究センターが行っている生活と意識についての国際比較調査2018年版によると、「（あなたは）信仰している宗教はありますか」という設問に対し、「ある」と答えた人は9.1％であった。「特に信仰している宗教はないが家の宗教はある」が28.9％で、「ない」と答えた人は60.7％とISSPの調査と変わりがないことがわかった。

しかし文化庁の宗教年鑑令和２年版には、日本の宗教団体（宗教法人を含む）は総計で21万

5,090団体あり、信者数は１億8,310万7,772人と記されている。令和２年の国勢調査速報によると日本の人口は１億2,622万7,000人であり、これによると日本人は一人につき１つ以上の宗教団体に所属していることになるが、宗教年鑑は法人格を取得した宗教法人に関する資料や統計が掲載されているため前述した２つの調査とは対象が異なる。そのため日本人の半数以上は「無宗教」であるという認識をしていると考えてよいだろう。

２．７　日本人の宗教観

世界には様々な宗教があるが、大きく「世界宗教」「民族宗教」「自然宗教」に分類されている。世界宗教には「仏教」「イスラム教」「キリスト教」があり、民族宗教には「ユダヤ教」「ヒンズー教」「道教」そして「神道」がある。自然宗教は世界各地に分布しているが、主に呪術的な宗教からなる。

神道を信仰する人はISSPの調査で３％、JGSS研究センターの調査では５％であり、日本固有の宗教はごく限られた人のみが信仰している。

川越総鎮守氷川神社第23代宮司の山田禎久氏が2011（平成23）年１月に株式会社リクルートゼクシィ事業部（当時）のキックオフで「日本人としての結婚式」という題目で講演を行った際に、日本人の宗教観に触れる場面があった。

> 先ほど例えに出ました除夜の鐘は仏教で、初詣は神道である。そして他の国の特に一神教の世界の方からすると、非常に節操がない宗教観だと捉えられています。（中略）
> 神様が一人ではない。一神教ではなく、多神教で自分たちの身の回りにたくさん神様がいる。その神様のことを八百万の神と呼んでおります。（中略）
> 日本人がずっと大切にしてきた何となくの神道と規則的な教理を持っている仏教が融合して日本人の生活にあった、でも日本人が守るべきもの、敬うべきものをきちんと持っていたからこそ、神道と仏教は一緒にいたのです。そして、現代に生きる我々も明治以降の神社とお寺が垣根を分けられた以降、恐らくお寺と神社とどう違うのという質問をよくされますけれども、それは実に日本人らしいおおらかな宗教観であると。そして神社の人間も、お寺の人間もそれを否定するものではありません。日本人は目には見えない大きな力を「神」「仏」と敬ってきたということ自体が、日本人のおおらかな宗教性を持って寛容な精神性を育んできたと考えています。
> 『日本人としての結婚式』より

古来稲作を営み自然の恵や脅威に感謝や恐れを抱いてきた日本人の本来の信仰の形は、身の回

りの自然現象によるものが大きいのだ。さらに日本が「多神教」であることや、日本固有の信仰と外来の仏教が融合する神仏習合の歴史が日本人の宗教観に大きな影響を与えたと言えるのではないか。

３．おわりに

花嫁が婚礼時の衣裳を選択する際に「宗教」を意識することはないようである。婚礼に限らず人生儀礼においても日本人のおおらかな宗教観は見てとれる。多くの日本人は子供の誕生を祝う初宮詣は神道のしきたりに則って執り行い、結婚式はキリスト教式で挙げ、葬儀は仏式で行う。古来日本人は誰かが作ったものを真似てものを作り、改良を加えて独自のものを産み出して発展を続けてきた。日本人の柔軟性は人生儀礼においても同様のようだ。

教理教典がない神道を信仰する宗教に選ぶ人が増加するかは不明であるが、本来身の回りのものを大切にすることや自然とともに生きることを成してきた日本人のおおらかな宗教観は、婚礼の衣裳選択にも反映されているといえるだろう。

注

１．フォトウエディングとは挙式・披露宴とは別日にスタジオや街中、観光地などで写真を撮るウエディングスタイルである。

参考文献

柳田国男『婚姻の話』岩波文庫，2017.

高群逸枝『日本婚姻史』インプレスR&D，2019.

岩井宏實『日本人　祝いと祀りのしきたり』青春出版社，2012.

互助会保証株式会社　一般社団法人　全日本冠婚葬祭互助協会『冠婚葬祭の歴史』水曜社，2014.

八条忠基『日本の装束解剖図鑑』エクスナレッジ，2021.

長崎巌『日本の婚礼衣裳　寿ぎのきもの』東京美術，2021.

TAKAMI BRIDAL『継ぐもの　日本の婚礼』TAKAMI BRIDAL，2009.

文化学園服飾博物館『世界の民族衣装図鑑』ラトゥルズ，2019.

ナショナルジオグラフィック『世界の民族衣装』日経ナショナルジオグラフィック社，2013.

ウエディングスビューティフルジャパン『日本のドレスコーディネーター育成プログラム』ウエディングスビューティフルジャパン，2013.

山田禎久『日本人としての結婚式』筆者文字起こし，2011.

文化庁『宗教年鑑令和２年版』
https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/hakusho_nenjihokokusho/shukyo_nenkan/pdf/r02nenkan.pdf，2021年11月.

リクルートブライダル総研『結婚トレンド調査2021首都圏』，
https://souken.zexy.net/date/trend2021/XY_MT21_report_06shutoken.pdf，2021年10月.

リクルートブライダル総研『日本の挙式スタイル50年の変遷』，
https://souken.zexy.net/research_news/2011/0650---33642--- 0 caf.html，2021年10月.

風俗博物館『日本服飾史資料』,https://www.iz2.or.jp/fukushoku/f_disp.php?page_no=0000035，2021年10月.

NHK『NHK放送史』，
https://www2.nhk.or.jp/archives/tv60bin/detail/index.cgi?das_id=D0009030029_00000，2021年11月.

東京都洋服商工協同組合『洋服伝来の歴史』,https://www.yohfuku.or.jp/history.html，2021年10月.

教育と研究の未来『風俗画報でみるロイヤルウエディング』，
https://mirai.kinokuniya.co.jp/2017/10/1545/，2021年９月.

長谷川髪結工房『女性の婚礼服飾・風俗史』，keppatsukobo.jp/Shouzoku/index.html，2021年９月.

もうひとつの結婚式『新日本の結婚式の歴史』，
https://www.100nen-shuppan.com/kekkonshikinorekishi，2021年９月.

結婚あした研究所『フォトウエディング動向調査2021』，
https://kekkon-ashita.weddingpark.co.jp/photowedding-2021/?_ga=2.84635417.1622308509.1636981188-1053862946.1636981188，2021年９月.

ぐるなびWEDDING『結婚式の衣装の歴史』，https://wedding.gnavico.jp/howto/27392，2021年11月.

小林利行「日本人の宗教的意識や行動はどう変わったか」『放送研究と調査』NHK放送文化研究所2019，pp. 53-54.

堀江マサ子「源氏物語空蟬の単衣と小袿の位相」『フェリス女学院大学日文大学院紀要』第18号，2011，pp. 12-13.

長崎巌「青地の婚礼衣裳：江戸時代の婚礼衣裳とその伝統の継承」『共立女子大学博物館　年報/紀要』第１号，2018，pp. 21-23.

大澤香奈子「ウエディングドレスの進展と京の街のブライダルビジネス」『京都光華女子大学短期大学部研究紀要』第52集，2014，pp. 48.